まえがき

東京都区部の下水道が 100%普及概成してから早 10 年が経過しました。しかし、局地的集中豪雨などによる都市型水害への対応、お台場のオイルボールに代表される合流式下水道の改善、老朽化した下水道施設の再構築など、安全で快適な都市生活を維持していくには、まだまだ多くの解決すべき課題が残されています。さらには、快適な水環境の創出、地球温暖化の防止などにも力を注いでいくことが求められています。

こうした課題に対処するために、平成 13 年に「下水道構想 2 0 0 1 」を策定しましたが、その後の東京都の財政状況が相変わらず厳しいことに加え、下水道料金収入の逓減傾向も続いています。

また、これまで事業の中核を担ってきた団塊世代の職員が大量に退職する時期を目前に控え、総合的な技術力を維持し、長年にわたって培ってきた技術・ ノウハウを円滑に継承していく必要があります。

このように、ヒト(職員)・モノ(施設・設備)・カネ(財政)といった経営 資源が制約を受けていることから、下水道事業の維持向上を図っていくために、 昨年「経営計画2004」を作成しました。その中の「経営改善に向けた取組」 において、下水道事業が直面する技術的な諸課題の解決に向けた先駆的な技術 開発の推進を大きな柱にしています。

お客さまである都民や事業者の方々に、より一層のサービスを提供するとともに、経済性を考慮した効率的な経営を目指し、「お客さま」「環境」「経営」の 視点から技術開発を推進していきます。

本技術開発推進計画は、局内のさまざまな部所で実施されている技術について、技術開発業務に関連する諸課題を分析・検討し、今後の技術開発の取り組むべきテーマと技術力の維持・向上に向けた取り組みについて明記しました。

局内の全職員が共通認識を持って、技術開発を一層推進するために本推進計画を活用されることを期待しています。

平成 17 年 3 月

東京都下水道局長 二村 保宏